

(平)

平成30年度 第2回徳島県動物由来感染症対策検討会 次 第

と き 平成31年3月27日(水)
午後2時から

ところ 徳島県庁7階707会議室
徳島市万代町1-1

1 開 会

2 消費者くらし安全局長 あいさつ

3 委員紹介

4 議題

(1) 平成30年度事業報告

- ・モニタリング調査結果について
- ・研修会等の開催について

(2) 次年度事業計画

- ・動物由来感染症対策に係るネットワーク構築方法の検討

5 健康増進課 感染症・疾病対策室長 あいさつ

6 閉 会

平成30年度 第2回 徳島県動物由来感染症対策検討会 配席図

県庁7階 707会議室

スクリーン

オブザーバー	委員長	顧問	
厚労省 長谷川主査	馬原委員	井上顧問	藤田顧問
岡部委員			大島委員
藤野委員			三谷委員

事務局		消費者くらし安全局	感染症・疾病対策室	畜産振興課	消費者くらし政策課
○	○	○	○	○	○

織田 矢野 局長 室長

発表者		健康増進課	動物愛護管理センター	保環センター
○	○	○	○	○

保健所								
○	○	○	○	○	○	○	○	○

報道

報道

平成30年度第2回徳島県動物由来感染症対策検討会 委員等名簿

委 員	区 分	氏 名	勤 務 先
	学識経験者	馬原 文彦	馬原医院
	(一社)徳島県医師会	岡部 達彦	岡部内科クリニック
	〃	藤野 佳世	ふじのクリニック
	(公社)徳島県獣医師会	大島 寛彰	おおしま動物病院
	〃	三谷 佐和子	あけぼの動物病院
顧 問	区 分	氏 名	勤 務 先
	学識経験者	井上 智	国立感染症研究所
	〃	藤田 博己	馬原アカリ医学研究所
	オブザーバー	長谷川 朗生	厚生労働省 健康局結核感染症課

部会員

各保健所担当

食肉衛生検査所担当

動物愛護管理センター担当

保健製薬環境センター担当

健康増進課感染症・疾病対策室担当

畜産振興課担当

消費者くらし政策課担当

平成31年3月27日

平成30年度ジビエ病原体保有状況調査について（報告）

1 調査期間 平成30年4月～平成31年3月

2 検体数及び主な捕獲場所

《狩猟者からの送付分》

- | | |
|------------------|------------------|
| ・三好郡 シカ 4、イノシシ 2 | ・鳴門市 イノシシ 16 |
| ・三好市 シカ 7、イノシシ 4 | ・徳島市 シカ 1、イノシシ 5 |
| ・美馬市 シカ 1、イノシシ 1 | ・阿南市 シカ 2、イノシシ 7 |
| ・美馬郡 シカ 1、イノシシ 1 | ・勝浦郡 シカ 3、イノシシ 2 |
| ・阿波市 イノシシ 2 | ・海部郡 シカ 2、イノシシ 2 |
| ・吉野川市 シカ 2 | ・那賀郡 シカ 2 |
| ・名西郡 シカ 2 | ・香川大学農学部繁殖 ウサギ 5 |

合計 シカ 27頭、イノシシ 42頭、ウサギ 5羽 （74検体）

《処理施設からの買い上げ分》

- ・山里のめぐみ シカ 2、イノシシ 1
- ・祖谷の地美栄 シカ 1
- ・中川食品 シカ 3
- ・木沢シカ肉加工施設 シカ 3

合計 シカ 9頭、イノシシ 1頭（10検体）

3 検査結果

(1) E型肝炎ウイルス（HEV）・・血清・肝臓から HEV 遺伝子を検出。

現在精査中。

シカ 0/25（0%） イノシシ 5/37（14%）

(2) リケッチア等・・抗体検査（IP法：×40以上を陽性）

日本紅斑熱、ツツガムシ病、SFTS ウイルスについて、検査中。

(3) 細菌

糞便中の保菌状況

	シカ 陽性数 / 検査数 (%)	イノシシ 陽性数 / 検査数 (%)	ウサギ 陽性数 / 検査数 (%)
腸管出血性大腸菌 (VT、STEC)	2/26(8%)	1/42(2%)	0/5(0%)
サルモネラ、赤痢 菌	0/26(0%)	0/42(0%)	0/5(0%)
カンピロバクター 属菌	2/26(8%)	18/42(43%)	0/5(0%)
エルシニア属菌	2/26(8%)	0/42(0%)	0/5(0%)
アルコバクター	3/26(12%)	11/42(26%)	0/5(0%)

製品冷蔵食肉の微生物汚染状況

：一般生菌数と大腸菌数の測定及び、サルモネラ属菌、カンピロバクター属菌、黄色ブドウ球菌汚染について検査したところ、シカ肉製品2検体から黄色ブドウ球菌が検出された。

野兎病菌　　：微量凝集反応法による抗体検査・・・現在検査中

レプトスピラ：腎臓よりレプトスピラ遺伝子を検出

シカ　0/22 (0%)、イノシシ2/40 (5%)

(4) 寄生虫

	シカ	イノシシ
トリヒナ：筋肉からPCR法により検出	2/35 (6%)	6/40 (15%)
槍形吸虫：肝臓の細切により検出	0/20 (0%)	—
豚腎虫：腎周囲脂肪、腎盂より検出	—	9/40 (24%)

(5) 有害残留物質

	シカ	イノシシ
筋肉中の放射性物質検査	0/17 (0%)	0/26 (0%)
筋肉中の残留農薬検査	0/12 (0%)	0/11 (0%)

(6) 採取されたダニ

○イノシシから採取(232匹)：タカサゴキラマダニ, タイワンカクマダニ, ヤマトチマダニ, キジチマダニ, キチマダニ, ヒゲナガチマダニ, フタトゲチマダニ, オオトゲチマダニ

○シカから採取(98匹)：フタトゲチマダニ, オオトゲチマダニ, キチマダニ, ヤマトチマダニ, タカサゴチマダニ, ヒゲナガチマダニ, タカサゴキラマダニ

ジビエにおける病原体保有状況調査

H31.3.27

徳島県食肉衛生検査所

1 調査期間 平成23～平成31年3月

2 検体数及び捕獲場所

表)年度別の検体数

年度	シカ	イノシシ	ウサギ	計
H23	5	—	—	5
H24	54	—	—	54
H25	6	13	—	19
H26	78	133	—	211
H27	20	52	—	72
H28	24	30	—	54
H29	30	27	—	57
H30	27	42	5	74
計	244	297	5	546

H30年度 地域別の検体数 (()内はH29年度)

	シカ	イノシシ	計
西部(三好市、美馬市)	13(12)	8(1)	21(13)
中部北(阿波市、鳴門市)	0(0)	18(14)	18(14)
中部南(吉野川市、名西郡、名東郡)	4(4)	0(3)	4(7)
徳島(徳島市、小松島市)	5(1)	1(3)	6(4)
南部(阿南市、勝浦郡、那賀郡、海部郡)	9(13)	11(6)	18(19)

ウサギ:香川大学農学部繁殖ウサギ 5羽

合計 74 頭

《 施設からの買い上げ分 冷蔵食肉 》

山里のめぐみ シカ2、イノシシ1

祖谷の地美栄 シカ1

中川食品 シカ3

木沢シカ肉加工施設 シカ3

合計 10 検体

3 結果

E型肝炎ウイルス(HEV)

1 方法 シカ、イノシシ血清及び肝臓からRT-PCR法によりHEV遺伝子の検出。

2 結果

	シカ	陽性	イノシシ	陽性
H23	5	0		
H24	54	0		
H25	6	0	13	0
H26	62	0	124	1
H27	20	0	52	1
H28	21	1	26	0
H29	29	0	26	1
H30	25	0	37	5

食中毒細菌

1 方法

直腸便から、細菌培養及び遺伝子検査により、O157などの病原性大腸菌、カンピロバクター、サルモネラ、エルシニア属菌の検査を行った。

アルコバクター、カンピロバクター、腸管出血性大腸菌の検査結果については、日本大学壁谷教授からの検査結果も含む。

2 結果

シカ	病原性大腸菌	カンピロバクター	サルモネラ,赤痢菌	エルシニア	アルコバクター
H26	3(O103) / 66	11 / 73	0 / 73	5 / 73	-
H27	0 / 15	0 / 15	-	1 / 15	-
H28	0 / 23	2 / 23	-	0 / 23	-
H29	0 / 27	1 / 27	0 / 27	0 / 27	-
H30	2 / 26	2 / 26	0 / 26	2 / 26	3 / 26

イノシシ	病原性大腸菌	カンピロバクター	サルモネラ,赤痢菌	エルシニア	アルコバクター
H26	13 / 108	90 / 123	2 / 124	3 / 124	-
H27	1(O143) / 31	17 / 31	-	5 / 31	-
H28	0 / 23	6 / 25	-	0 / 25	-
H29	0 / 25	5 / 26	0 / 26	2 / 26	-
H30	1 / 42	18 / 42	0 / 42	0 / 42	11 / 42

ウサギ	病原性大腸菌	カンピロバクター	サルモネラ,赤痢菌	エルシニア	アルコバクター
H30	0 / 5	0 / 5	0 / 5	0 / 5	0 / 5

○腸管出血性大腸菌について、シカ2頭でSTECが、イノシシ1頭でVTが検出された。
○シカもイノシシもアルコバクターを高確率で保菌していることがわかった。

食肉製品についての食中毒菌検査(シカ、イノシシ)

・試料を10倍希釈した溶液を用いて、培養検査を行った。

	黄色ブドウ球菌	カンピロバクター属菌	サルモネラ属菌
H30	2 / 10	0 / 10	0 / 10

寄生虫検査

1 住肉胞子虫・・・筋肉からPCR法により検査を行った。

	シカ	陽性数	(陽性率)	イノシシ	陽性数	(陽性率)
H26	70	61	(87%)	126	89	(71%)
H27	15	14	(93%)	31	22	(71%)
H28	23	20	(87%)	28	24	(86%)

2 ヘパトゾーン・・・住肉胞子虫検査で使用した検体からPCR法により検査を行った。

	シカ	陽性数	(陽性率)	イノシシ	陽性数	(陽性率)
H26-27	85	0	(0%)	157	79	(50%)
H28	23	0	(0%)	28	23	(82%)

※今回検出されたヘパトゾーンはイノシシに特有のものと考えられた。

3 槍形吸虫・・・シカの肝臓を細切することにより検査を行った。

	シカ	陽性数	(陽性率)
H26	43	9	(21%)
H28	11	2	(18%)
H29	28	4	(14%)
H30	20	0	(0%)

4 旋毛虫(トリヒナ)・・・筋肉からPCR法にて検査を行った。

	シカ	陽性数	(陽性率)	イノシシ	陽性数	(陽性率)
H29	28	1	(4%)	27	1	(4%)
H30	35	2	(6%)	40	6	(15%)

5 豚腎虫・・・イノシシの腎盂、腎周囲脂肪を細切することにより検査を行った。

	シカ	陽性数	(陽性率)
H30	40	9	(24%)

レプトスピラ

1 方法

平成28年度は血清、H29,H30年度は腎臓からDNAを抽出し、PCR法にて検査を行った。

2 結果

	シカ	陽性数	(陽性率)	イノシシ	陽性数	(陽性率)
H28(血清)	21	1	(4%)	26	0	(0%)
H29(腎)	26	1	(4%)	27	5	(19%)
H30(腎)	22	0	(0%)	40	2	(5%)

残留有害物質検査

1 放射性物質検査

① 方法・・・ゲルマニウム半導体検出器により、筋肉中の放射性セシウム(Cs-134,137)の検査を行った。

② 結果

	検体数 シカ	Cs-134	Cs-137	検体数 イノシシ	Cs-134	Cs-137
H26	51	検出せず		120	検出せず	
H27	7	検出せず		8	検出せず	
H28	14	検出せず		9	検出せず	1(基準値未満)※
H29	17	検出せず		17	検出せず	
H30	17	検出せず		26	検出せず	

※食品の基準値100ベクレル/kgに対し3ベクレル/kgと微量な値であり、人の健康への影響はありません。

2 残留有害物質検査

① 方法・・・ガスクロマトグラフィーにより、筋肉中の残留農薬検査等を行った。

② 結果

	シカ	農薬	イノシシ	農薬
H26	シカ・イノシシ	26	検出せず	
H27	8	検出せず	10	検出せず
H28	9	検出せず	4	検出せず
H29	10	検出せず	7	検出せず
H30	12	検出せず	11	検出せず

リケッチア症及びSFTS抗体検査

1 方法 シカ、イノシシ血清における抗体を、日本紅斑熱 (*Rickettsia japonica*), 発疹熱 (*R. typhi*), ツツガムシ病 (*Orientia tsutsugamushi*) の血清型6種 (Gilliam, Karp, Kato, Irie, Hirano, Shimokoshi) 及び重症熱性血小板減少症候群 (SFTSV) について、間接免疫ペルオキシターゼ反応 (IP法) により調査。

※シカ・イノシシの検体数のうち、それぞれの陽性数 (抗体価40倍以上を陽性) を計上。

※ツツガムシ病については、いずれかの抗体が陽性となったものを換算して計上。

2 結果

シカ	検体数	日本紅斑熱	(%)	ツツガムシ病	(%)	SFTS	(%)
H23	5	1	(20%)	0	(0%)	0	(0%)
H24	54	3	(6%)	8	(15%)	0	(0%)
H25	6	1	(17%)	3	(50%)	0	(0%)
H26	59	30	(51%)	30	(51%)	8	(14%)
H27	19	6	(32%)	4	(21%)	1	(5%)
H28	21	8	(38%)	9	(43%)	1	(5%)
H29	25	3	(12%)	3	(12%)	9	(36%)

【シカ】日本紅斑熱及びツツガムシ病は年度により陽性率に差があるが、常に陽性。SFTSはH26年から陽性個体が見られる。今年度はSFTSが最も高い結果となった。

イノシシ	検体数	日本紅斑熱	(%)	ツツガムシ病	(%)	SFTS	(%)
H23	—						
H24	—						
H25	13	9	(69%)	5	(38%)	5	(38%)
H26	119	80	(67%)	60	(50%)	29	(24%)
H27	50	5	(10%)	13	(26%)	16	(32%)
H28	28	14	(50%)	11	(39%)	4	(14%)
H29	23	3	(13%)	2	(9%)	6	(26%)

【イノシシ】シカと同様に日本紅斑熱およびツツガムシ病、SFTSすべて陽性。今年度はシカ同様、SFTSが最も高い結果となった。

野兎病 抗体検査

1 方法

シカ、イノシシ血清における抗体価を微量凝集反応法により調査。抗体価80倍以上を陽性とした。(抗原液Ft38株は、アカリ研究所より分与いただきました。)

2 結果

		検体数	× 40	× 80	× 160	× 320
シカ	H26	30	16	11	1	1
	H27	18	5	5		
	H28	21	4	6		
	H29	26	4	6		
イノシシ	H26	90	43	13	1	
	H27	49	16	7		
	H28	28	5	4		
	H29	22	11			

『狂犬病セミナー』

平成31年1月8日（火）午後7時30分

ザ・グランドパレス 4階メイプルルーム

次 第

○ あいさつ

馬原 文彦 徳島県動物由来感染症対策検討会委員長

○ 講師紹介

○ セミナー

狂犬病：清浄地域の課題

～台湾に侵淫していた野生動物の狂犬病～

許偉誠（Wei-Cheng HSU）先生 台湾動物衛生研究所

井上 智 先生 国立感染症研究所獣医科学部第二室長

○ ディスカッション

国内の狂犬病対策について

○ 閉会

西條 和芳 徳島県危機管理部消費者くらし安全局長

狂犬病:清浄地域の課題(台湾に侵淫していた野生動物の狂犬病)

台湾政府が、2013年7月にイタチアナグマに定着した狂犬病リッサウイルス株による野生動物の狂犬病アウトブレイクをOIEに報告した。野生動物の狂犬病サーベイランスを大学の獣医学部と連携して開始した直後であり、報告から1か月を待たずに台湾北端を除く全島のイタチアナグマに狂犬病の流行が明らかとなった。現在まで、1頭のイヌ、6頭のハクビシン、1頭のスナネズミが陽性と報告されている。狂犬病患者の発生は無いが、毎日100名が暴露後ワクチン接種を受けに来院している。政府が狂犬病を摘発して迅速な対応を取り得たのは、1999年から行ってきた狂犬病サーベイランスによる体制整備強化の成果である。厚生労働省は、台湾の狂犬病報告を受けて「国内動物を対象とした狂犬病検査実施について」(健感発0804 第1号:平成26年8月4日)を「動物の狂犬病調査ガイドライン」と共に都道府県・保健所設置市・特別区の衛生主管部(局)長宛に通知して、国内の狂犬病体制整備の強化を進めている。

狂犬病はイヌなどの食肉目で流行している狂犬病ウイルス (*Rabies lyssavirus: RABV*) による感染症とされてきたが、2017年4月のバンコクにおける世界保健機構 (World Health Organization: WHO) 狂犬病専門家会議で、リッサウイルス属のウイルスによる感染症を狂犬病と呼称することとなったが、2016年と2017年に、台湾在来のコウモリから異なる新種のコウモリリッサウイルスが分離された。極東で見つかったイルクーツクリッサウイルス (IRKV) に近い遺伝子型であり、これまでに、IRKVに感染した女性が1名死亡している。東アジアに生息するコウモリにもリッサウイルスの潜んでいることが明らかにされた。なお、台湾でリッサウイルスが分離されたコウモリは、アブラコウモリ(日本イエコウモリ)である。狂犬病清浄国とされる日本の野生動物におけるリッサウイルスの侵淫が懸念される。2017年11月に台北市で開催されたAPEC野生動物狂犬病ワークショップでは、アジア地域におけるコウモリを含めた野生動物の疫学調査やサーベイランスの重要性、その強化や方法について活発な議論がなされた。

日本は狂犬病の無い国でいられるのか、台湾政府の研究所で野生動物の狂犬病サーベイランスと診断を担当している許偉誠(Wei-Cheng HSU)先生から台湾における狂犬病の最新状況とその課題等を共有して、清浄国と考えられている日本の国内対策について一緒に考えてみたい。

国立感染症研究所 獣医科学部

井上 智

sinoue@nih.go.jp

演 題: Current rabies studies in the Animal Health Research Institute in Taiwan

演 者: 許偉誠(Wei-Cheng HSU)先生

所 属: 台灣動物衛生研究所 (Animal Health Research Institute, Taiwan)

連絡先: wchs@mail.nvri.gov.tw

From July 1, 2013 to August 31, 2018, 715 of 2,617 wild carnivores in Taiwan were tested positive by direct fluorescent antibody test. Among the tested Formosan ferret-badgers (*Melogale moschata subaurantiaca*; FFB), 37.9% (709/1,873) were positive, encompassed 98.5% (709/720) positive cases. Through experimental infection, the FFB-associated rabies virus displayed extremely low MICLD₅₀ and failed to induce infection in rodents via intramuscular route. For strengthening the diagnosis capacity of national surveillance system for rabies, we developed a highly sensitive quantitative real-time RT-PCR assay. To evaluate the applications of WHO-recommended live oral rabies vaccine for wildlife, we proved that the SAG2 is safe for ferret badgers and can provide protection against FFB-associated RABV. Moreover, two new lyssaviruses were found in Japanese pipistrelle (*Pipistrellus abramus*) and Mountain Noctule (*Nyctalus plancyi velutinus*), respectively, in Taiwan in 2016-2018. The phylogenetic analysis based on the sequence of the concatenated coding regions suggested that both novel viruses belongs to Phylogroup I lyssavirus. The newly isolated lyssaviruses may be representative of two new species. According to our studies, the FFB-associated RABV is probably less virulent to non-host species; both the appropriate implementation of surveillance and the increased vaccination rates in dog population bring up effective management. The developed real-time RT-PCR assay contributes the surveillance measures of our country as well. The SAG2 live vaccine assessed in this dissertation will make a good shoot to control and even to eliminate of FFB-associated rabies in the future. Finally, two novel lyssaviruses were identified during our survey in Taiwan. Persons in Asia countries should be aware to seek proper prophylaxis immediately if bitten by a bat.

狂犬病セミナー



徳島県動物由来感染症対策検討会が開催
出席者：医師会、獣医師会、県関係者 30名が出席
台湾における狂犬病発生時の対応や現状についてご講演いただいた



馬原アカリ医学研究所にて

日本と台湾のダニ、リケッチア症などについて情報交換

動物愛護管理センターにて

狂犬病検査に関する検体採取方法などについて情報交換
野生動物の検体採材方法について、
レクチャーを受けた



2019年度 動物由来感染症検討会・部会事業計画

	検 討 会	部 会
2019年		・関係機関の連携整備計画案 ・モニタリング検査実施計画 ・狂犬病モニタリング計画 ・<u>医療・獣医療間の情報共有に係るネットワーク構築の検討（案）</u>
4月～	第1回検討会（10月） ・事業実施進捗状況報告 ・本年度目標・事業計画の検討 ・情報収集手段・情報分析・提供計画の検討 ・関係機関の連携整備計画案検討 ・動物由来感染症発生時における危機管理体制の検討 ・動物由来感染症に関する研修会あり方検討（医療、獣医療及び行政関係者）	・狂犬病モニタリング調査 ・<u>狂犬病検査方法の検討</u> ・ジビエモニタリング調査（イノシシ・シカ等対象） ・ダニ媒介感染症対策への検討 ・<u>医療・獣医療間の情報共有方法の検討</u> ・合同部会及び技術研修会の開催 ・情報収集手段・情報分析・提供計画案 ・関係機関・地域連携の推進 ・動物由来感染症に関する研修会
11月～		・モニタリングの実施及び結果分析 ・動物由来感染症に関する研修会（動物取扱業者、市町村等関係職員） ・関係機関・地域連携対策の推進
2020年 3月	第2回検討会（3月） ・関係機関の連携整備計画修正案の検討・決定 ・情報収集手段・情報分析・提供計画の検討・決定 ・本年度事業結果の検証 ・次年度目標の検討・決定	・今年度実施事業まとめ ・次年度目標案 ・関係機関の連携整備計画修正案 ・情報収集手段・情報分析・提供計画の見直し検討 ・次年度目標・事業計画案提出

人と動物の共通感染症に関する情報ネットワーク ①

感染症法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）：厚生労働省

医療

- ① 感染症法に規定される一類～五類感染症等の届出を義務化
- ② 発生の状況及び動向の把握
- ③ 原因調査の実施

- 感染症発生動向調査 (IDWR) 週報
全数・定点把握
- 行政機関等での検査

随時、広く情報提供
→ 医療機関だけでなく一般に公開
(国立感染症研究所HP、県HP、メール等)

獣医療

- ① 感染症法に規定される一類～五類感染症等のうち、一部についてのみ届出を規定
- ② 国からの発生事案 (トピックス) の情報提供
- ③ 原因調査の実施

【届出義務がある感染症と動物】

- 1 エボラ出血熱 サル
- 2 マールブルグ病 サル
- 3 ペスト プレーリードッグ
- 4 重症急性呼吸器症候群 (SARS) イタチアナグマ、タヌキ、ハクビシン
- 5 細菌性赤痢 サル
- 6 ウエストナイル熱 鳥類
- 7 エキノコックス症 イヌ
- 8 結核 サル
- 9 鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9) 鳥類
- 10 新型インフルエンザ等感染症 鳥類
- 11 中東呼吸器症候群 (MERS) ヒトコブラクダ

「狂犬病」については狂犬病予防法により別に規定される

獣医療

- ① 家伝法に規定される家畜伝染病等についての届出の義務化
- ② 発生の状況及び動向の把握
- ③ 原因調査の実施

監視伝染病発生情報 (月報) → 農林水産省HP等で公開

家畜伝染病予防法：農林水産省

【届出の義務がある家畜伝染病等と家畜 (一部抜粋)】

- ・狂犬病 牛、馬、めん羊、山羊、豚
- ・ブルセラ症 牛、めん羊、山羊、豚
- ・高病原性鳥インフルエンザ 鶏、あひる、うずら
- ・レプトスピラ症 (限定) 牛、水牛、しか、豚、いのしし、犬
- ・トキソプラズマ病 めん羊、山羊、豚、いのしし
- ・野兔病 馬、めん羊、豚、いのしし、兎

人と動物の共通感染症に関する情報ネットワーク ②



人の身近で生活している
ペットの病気は??

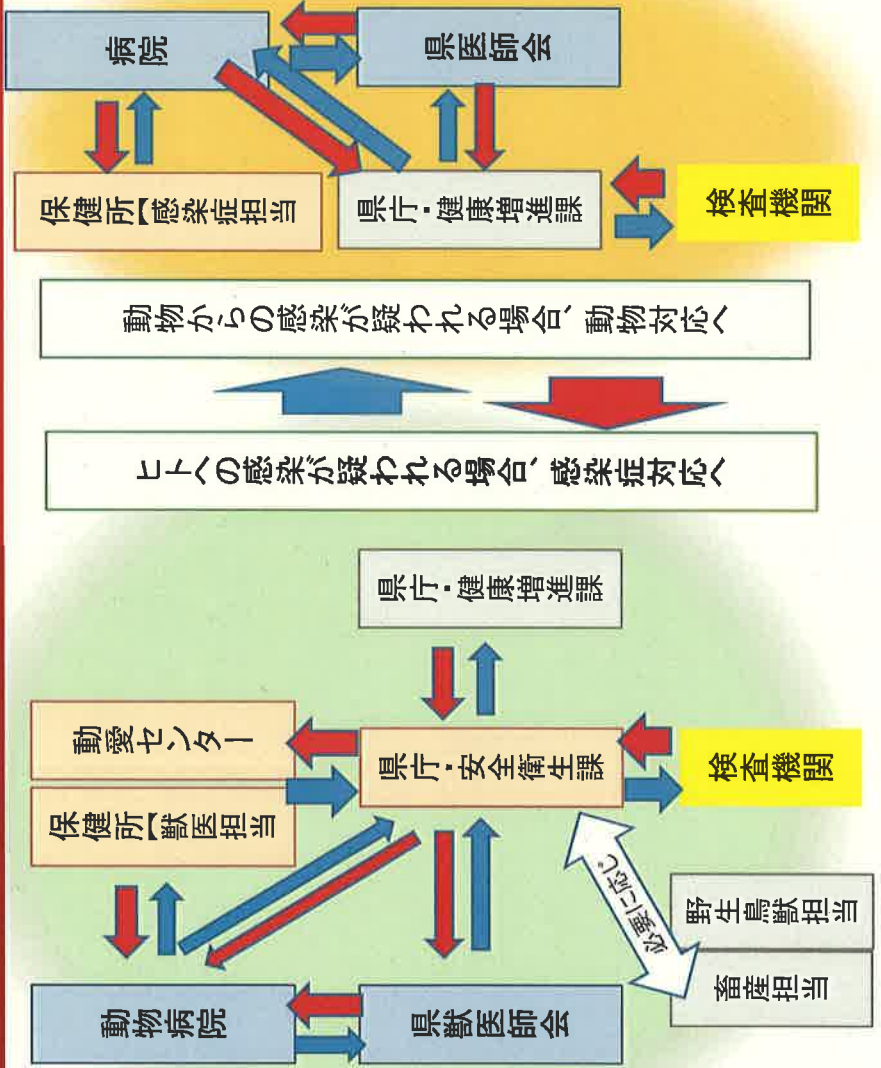
狂犬病、SFTS、ブルセラ症、レプトスピラ症、エキノコックス症 等

H30年度に検査したペット動物でのSFTS
(注:安全衛生課に情報提供があった事例に限る)

ネコ	3検体	陽性確認	飼い主、獣医師等の 体調不良者 「なし」
イヌ	1検体	(抗体陽性)	
イヌ	2検体	(抗体陰性)	

(参考)H30年
ヒトでの発生1例

共通感染症に関する情報の流れ(SFTS、狂犬病を例として)



人と動物の共通感染症対応

医療・獣医療・行政
3者の連携が必須

他の共通感染症において、
SFTSや狂犬病と情報提供の
レポートは、
かわる？かわらない？

人と動物の共通感染症に関する情報ネットワーク ③

人と動物の共通感染症を疑う場合

① 人、動物ともに有症
(人の感染が疑われる場合)



迅速な検査・診断
情報共有
処置(治療、対処)

が必要

② 動物は有症、人は症状なし
(人への感染の可能性がある場合)



動物の検査・診断
人への感染防止
処置(治療、対処)

が必要

③ 人は有症、動物は症状なし
(動物への感染の可能性がある場合)



共通感染症を疑うことが困難?

【検討課題】 医師・獣医師間の情報共有の方法は?

現在

① 情報の伝達について

窓口 : 県(保健所等)
手段 : 電話、FAX、メール
ルート : 獣医師 ⇄ 行政 ⇄ 医師
 医師 → 獣医師 (稀)

② 情報提供の内容について 有症の人・動物の情報 検査結果

検討事項

- ① 情報の伝達について
より早く的確に伝える方法は
- ② 情報提供の内容について
必須の情報と補助的な情報は
- ③ その他
感染予防のための情報や啓発は

検討課題

個別情報

(病院受診のための情報)

- ① 情報の伝達について
より早く的確に伝える方法は？
- ② 情報提供の内容について
必須の情報と補助的な情報は？
- ③ その他
感染拡大防止のための情報は？

一般情報

(周知のための情報)

- ① 情報の伝達について
より早く的確に伝える方法は？
- ② 情報提供の内容について
必須の情報と補助的な情報は？
- ③ その他
感染予防のための情報は？